



西尾市立岩瀬文庫

現代中国学部助教授 木 島 史 雄

床の間にかけてられた掛け軸は目にしたことがあっても、あれを横たえて書物にした巻物を見たことのある人は少ないであろう。ましてそれを手にして、その使い勝手を考えてみた人など、ごくまれであるに違いない。しかし、我々が書物を読む際、実際に手や目に触れるのは、抽象的な「文章」とか「文学」ではなく、大きさと色と形と重さを持ったモノとしての書物である。そして、文章そのものは同じでも、接する形態が異なれば、それらは異なった意味合いを帯びてくる。これは、「読書の文化史」と呼ばれる人文学研究の新しい視点であるが、そんなことを気軽に、しかも切実に感じさせてくれる場所がある。

お茶の産地として有名な西尾市の「岩瀬文庫」がそれである。図書館としてのみならず、昔のスタイルの書物に触れるという体験をとおして、書物の歴史をたどれる博物館として、今年4月にリニューアル開館した。

展示室に入ると、最初には、年代の明らかな世界最古の印刷物の一つである百万等陀羅尼、重要文化財指定の後奈良天皇筆「般若心経」などが並べられている。壁面には、東洋で生み出された様々な形態の書物が、展示・解説されている。巻物やお経もあれば冊子もあり、手書き本もあれば木版印刷本も活字印刷本もある。活字本と木版本の見分け方の解説もあれば、故紙を再利用した紙背文書も並べられている。さらに次の部屋にはそれらの複製があつて、実際に手に取ることができる。巻物型の書物で、終わり際の文字を見ることがいかに手間のかかることなのか、ページ付けのない本がいかにのっぺりとして扱いにくいモノなのかといったことが、ここでは自分の手と目で感じられる。印刷や活字についての博物館は他にあつても、書物の歴史全体を理解できるよう工夫された施設は世界でもまれである。

この岩瀬文庫は、私立図書館としてスタートした。同地出身の岩瀬弥助は肥料商から一代で莫大な財をなし、明治41年(1908)、全

くの私財でこの文庫を設立した。壮大なプランのもと、閲覧室はもとより、講演会用の会堂、読者のための宿舍、周囲には果樹・池水までもうけている。富商・財閥旧家がやったような、すでにある貴重書や骨董を保存維持するためではなく、市民への公開と利用を目的とする図書館が、ここに一個人の手で設立されたのである。名古屋にもまともな図書館がなかった当時、私立であるかどうかを問わず、岩瀬文庫は、東海圏で最も充実した図書館であった。図書の購入も積極的にすすめられ、新刊書を網羅的に購入するとともに、全国各地から貴重な書籍を集めている。集書のため弥助は、年末には札束を懐に、東西の古書街を回ったという。京都からは、公家柳原家や本草家山本亡羊の旧蔵書を一括して購入。いっぽう市内寺津八幡の神主渡辺政香の蔵書をはじめとして、郷土資料も熱心に収集している。前者には、現存最善本として各種翻刻本の底本とされる『枕草子』、後者には三河地方の一大資料集『三河志』の著者自筆稿本などがあつて著名である。また山本亡羊の蔵書を得て、動植物学である本草学に関わる書物も特に充実し、中国・朝鮮で出版された書籍、日本の禅宗寺院で刊行された五山版なども豊富にそろえ、東洋の書物の歴史を概観できる構成となっている。

岩瀬文庫は、何か特定の閲覧目的の図書が無くても、ちょっとした好奇心と学術や歴史への関心があれば、知的刺激を受けて十分に楽しめる施設である。

所 在：西尾市亀沢町480番地

電 話：0563-56-2459

開館時間：午前9時～午後5時 基本的に月曜休館

交 通：名鉄西尾駅下車 タクシー 10分または徒歩20分

詳細はホームページで

<http://www.city.nishio.aichi.jp/kaforuda/40iwase/>

編集・発行 愛知大学図書館

2003年12月17日発行 No. 28

■豊橋図書館 〒441-8522 豊橋市町畑町字町畑 1-1 ☎(0532) 47-4181
■名古屋図書館 〒470-0296 西加茂郡三好町黒笹 370 ☎(0561) 36-1115
■名古屋車道分館 〒461-8641 名古屋市東区筒井二丁目 10-31 ☎(052) 937-8116
URL <http://library.aichi-u.ac.jp>